

## 2025年 新年のご挨拶

一般社団法人日本病院薬剤師会  
会長

武田 泰生 Yasuo TAKEDA



新年明けましておめでとうございます。令和7（2025）年を迎えるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から日本病院薬剤師会（以下、日病薬）並びに都道府県病院薬剤師会の活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年一年間を振り返りますと、お正月に能登半島地震が発生し、多くの方々が被災されました。改めて心からお見舞い申し上げます。会員の皆様には、災害派遣あるいは災害ボランティアとして、日病薬が取り組んだ災害支援活動にご協力いただき、被災地の会員施設や後方支援施設での支援活動に多大なご尽力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。一方、全国から被災地へ派遣されたDMAT、JMAT等の災害医療チームの一員としても740名の会員が被災地で活動されましたことにも厚く御礼申し上げます。

また昨年は、医療・介護・障害福祉の3制度の改定が重なった年でした。日病薬が取り組んできた3つの柱、①業務の拡大、②資質の向上、③薬剤師不足と地域偏在の解消を大きく後押ししてくれる、病院薬剤師にとっては実りのある改定であったと思います。最も大きかったのは「薬剤業務向上加算」が新設されたことです。これは新任薬剤師の研修の充実と中堅薬剤師を地域の病院へ出向させて地域医療を学ぶという2つの要件を組み合わせた評価ですが、背景には、薬剤師不足で病棟業務等がなかなか実施できていない施設での新たな業務展開を期待するとともに、機能別施設間連携や地域医療連携の充実を図ることを目的とした加算とも言えます。一方、「がん薬物療法体制充実加算」は、医師が患者に対して診察を行う前に、薬剤師が服薬状況や副作用の発現状況等について確認・評価を行い、医師に情報提供、処方に関する提案等を行った場合の評価として同じく新設されました。これまで多くの施設で薬剤師外来として医師の診察前に取り組んできた薬学的介入に対して一定の評価を得たものです。今後、救急領域やHIV、精神科領域など、ほかの領域における外来診療への薬学的介入も診療報酬の評価対象となるよう拡大を目指していきたいと思っています。

日本の少子高齢化社会における医療・介護提供体制の構築に向けて地域医療構想が進んでいますが、将来、介護を必要とする患者が増えることが予想されており、訪問診療を中心とする患者宅での医療提供の必要性が指摘されています。一方、薬の専門家としての薬剤師は創薬モダリティの多様化に伴う医薬品の多様性への対応が求められています。これまでの在宅医療は薬剤管理を中心に展開されてきましたが、次世代においては、多様な薬物治療に対応できる知識と技能を有した薬剤師が求められるでしょう。在宅医療においても、チーム医療と病棟業務に精通した病院・診療所の薬剤師がその職能を活かし、かかりつけ薬剤師と協働で、適切な薬物治療管理を提供することが期待されます。日病薬は、このような次世代医療に貢献できる薬剤師職能の習得と資質向上に向けた取り組みを進めてまいります。

令和7年が会員の皆様にとってすばらしい一年となりますよう祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。